

第九期中間活動報告会開催

REF第九期中間活動報告会が令和四年三月五日(土)に完全オンラインにより開催された。福井県内外から二十三名の参加があった。

報告会は、初めに開会の挨拶として、副理事長である宮本好昭氏より頂き、『県境道路分科会』『交通分科会』『地象分科会』『道路安全分科会』の順に、現在までの活動報告と講評が行われた。その後、川本義海理事による総評が行われた。コロナ禍により行動を制限される中ではあったが、現地調査や文献調査など各分科会で少しずつコロナ禍以前の活動に戻りつつある印象を受けた。

中間報告会の後は、広報幹事及び財務幹事より、機関誌発送についての報告及び会費納入についての説明があり、宮本好昭副理事長による閉会の挨拶をもって、中間活動報告会は終了した。



中間活動報告会の状況

【分科会報告会】

【県境道路分科会】

「文献輪読(地域活性マーケティング)」

県境道路分科会では、県境地域の現地調査をメインとして活動を行っているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえて中止し、文献輪読のみの活動とした。

輪読する文献としては、「地域活性マーケティング(ちくま新書)」を用いた。本書は、地域産品のマーケティングを題材として、望ましい地域発展、地域支援のあり方をマーケティングの視点から述べており、地方が特産品でいかに稼ぐか実践に役立つ方針を示すことも目的としている。

特にふるさと納税制度の観点から地域と消費者の結びつきを深める方法を検討している。当分科会の対象である県境地域で特産品を生み出すことができれば、得た収益で地域の維持に貢献できるのではないかと考える。

発表 橋本 拓己氏
講評 嶋田 喜昭氏

【交通分科会】

「地方都市における自動車保有動機の特徴に関する研究」

自動車保有動機の特徴に関する研究

地方都市における自動車依存は顕著であり、多くの人にとって自動車がない生活は考えられない状況になっている。この中には「特に理由がない」等の合理的でない動機で所有する存在もあり、この層が相当数存在するとしたら、公共交通の利便性を向上させたとしても期待通りの効果を見込むことができない。そこで、非合理的な理由で自動車を所有している人がどの程度存在するか把握し、その特徴を明らかにする。

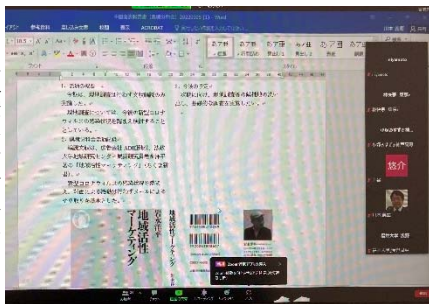
調査は全国の中核市を対象としてアンケート調査を実施し、八個の自動車の保有動機に対する重要度や類型化を行った。

まず、車を保有する動機的重要性として一対比較を用いて算出した。その結果、非合理的な保有動機の重要度は二割程度であった。

重要度の相関分析を行った結果、合理的な保有動機では「目的地への移動可能性」と「目的地までの快適性」を重視する動機に分かれた。また非合理的な動機では、「趣味性」と「他者からの目を気にする」といった移動とは無関係な動機に二分された。この相関の結果を踏まえクラスター分析を行い標本の類型化を行った。その結果、五分類に類型化され、非合理的な層は趣味性重視層と無意識保有層の二つが抽出された。

最終報告に向けて、追加分析とそれを基にした議論を行っていく予定である。

発表 浅野 周平氏
講評 清水 健氏



県境道路分科会



交通分科会

【地象分科会】

発表 梅田 祐一氏
講評 西谷 光史氏

「福井の地名から学ぶ防災・減災について
～小浜市編～」

大雨などの防災・減災を考えるにあたって、気象と並ぶ重要な要素として地形があげられる。地象分科会では、昨年に引き続き小浜市を対象として、現地調査や文献を通して地形の特徴を捉え、地名との関連について考察していく。

現地調査に先立ち、小浜市遠敷にある若狭歴史博物館で若狭地域の歴史を調べ、その後北川流域の現地調査を行った。

北川下流域の江古川では、現在施工中の輪中堤があり、この周辺では平成二五年の台風一八号により、多くの家屋浸水被害が発生したことから整備が進められている。また、北川は土砂供給力が高く、それに対して江古川のような小河川が合流する流域は後背湿地と呼ばれ浸水区域となりやすい。このような地域は、泥や腐敗土の堆積によって軟弱な地盤が形成されやすい特徴を持つ。

江古川の合流点付近は、河道を大きく屈曲させ、北川と並走させたのち、約一キロ先で合流させている。過去には江古川に水門を設ける計画があったが、現在では江古川の震提としての機能を維持しつつ、輪中堤などの個別対策を併用して流域治水を目指している。北川上流でも、支川流域の最下流の位置で震堤が確認された。江古川と上流の支川の二つの震堤は、対岸側に山体（絶対に破壊しない山付堤）が存在するため、自然に震提としての地形が形成され、水門を設けず、これを活用しているように見受けられた。

最終報告に向けてさらに調査を進め、防災・減災の在り方について整理、報告したい。

【道路交通安全分科会】

発表 三村 泰広氏
講評 小塚 みすず氏

「自動運転・MaaS社会における
短距離移動支援・サービスのあり方」

今年度の道路交通安全分科会では、MaaSの体系を捉え、短距離移動支援・サービスにおける活用方策について、特に自動運転やMaaSとの連携も考慮して検討する。中間報告では、MaaSの利用者像として想定される交通弱者の交通実態、また移動制約者の移動ニーズについて整理を行った。

まずは、MaaSターゲットの交通行動実態について平成二七全国都市交通特性調査結果を用いてターゲット層を把握する。

外出目的・頻度をみると、若者では平日は二〇代で男性が業務目的、女性は買い物目的が増加する。休日は買い物、食事の割合が多く占めており、女性の方が男性より頻度が多い。また、高齢者では八〇歳以降で外出頻度が顕著に減少し、休日でも同傾向となる。

交通手段に着目してみると、若者では男女差はあまりないが、地方都市圏では、MaaSの代替手段である徒歩・自転車での移動が三割を占める。高齢者では、地方都市圏において男性の自動車運転が多いが、女性は都市圏にみならず半数近くが自転車か徒歩で移動している。

これらを踏まえ、MaaSの可能性として、MaaSの最大の特徴は動力によるモビリティのサポートによる快適性と回遊性の向上であり、この恩恵を直接的に受けるのは、心身機能の低下により移動負担が増加する高齢者と想定される。また、若年層に対しても期待はされるが、暑い時の移動や荷物が多い等の突発的にニーズが発現されることも想定されるため、この点を踏まえて検討が必要である。

今後は、交通弱者の交通実態や移動制約者の移動ニーズ等を考慮し、新モビリティの技術基準や規制等も踏まえて、MaaSの体系を整理し活用方策を検討する。



地象分科会



道路交通安全分科会

【会費の納入について】

会費の納入をお願いします。

■年会費

正会員 … 一、二、〇〇〇円

賛助会員 … 三、〇〇〇円

■会費納入先

《振込みの場合》

ゆうちょ銀行

振替口座 七三〇・三・二〇三九六

福井地域環境研究会

※機関紙巻末の振込用紙をご利用ください。

《直接支払う場合》

総会、中間報告会、談話会等開催時、または、左記、財務幹事まで直接お支払ください。

【財務幹事】

〒九一三七八五一

福井県坂井市三国町水居一七四

福井県三国土木事務所

清水 健

TEL 〇七六・八二・一一八(内線四六一)

Main t-shimizu-j3@pref.fukui.lg.jp